

## 調査概要

筑波大学附属図書館所蔵、宮本文庫画帖十三帖のうち五帖の調査報告を行う。

大判錦絵を張り込んだこれらの画帖は、これまで他の宮本文庫の膨大な教科書類と共に保管され、系統だった報告が行われてこなかったため、美術史研究の素材としては活用し辛い状況にあった。今回の報告は、宮本文庫画帖の内容を明らかにし研究に資するべく、まとめるものである。

画帖十三帖の内訳は、次の通りである。一

文部省発行錦繪（衣喰住之内家職幼繪解之圖等）	曜齋國輝画	〈 950,196
文部省発行錦繪（衣喰住之内家職幼繪解之圖等）	曜齋國輝画	〈 950,197
文部省発行錦繪（運動の圖等）		〈 950,204
東京小學校教授雙録	廣重圖	〈 950,208
大日本物産圖會	廣重筆	〈 950,208
小学教育幻燈圖		〈 950,220
小学を解つくりな	明治二七	〈 950,237
幼稚園教手始	明治二四	〈 950,238
小学入門幼稚園	明治二五	〈 950,239
教育画作字片假名	明治二九	〈 950,240
錦繪修身談	第一至六卷	辻敬之編年親等画、
亭齋等校	明治一六年	再版
		〈 950,242

錦繪修身談 第一至六卷 辻敬之編年親等画、

亭齋等校 明治一六年 再版

大日本名將鑑 芳年画 明治二至十三

尚この他に、本稿では詳述しないが宮本文庫には次に挙げる同様の錦絵を貼り込んだ軸物二本があることを書き加えておく。

文部省発行錦繪（衣喰住之内家職幼繪解之圖）
 曜齋國輝画 | 〈 950,193 |

文部省発行錦繪（衣食住（二））
  | 〈 950,194 |

文部省発行錦繪（衣食住（三））
  | 〈 950,195 |

これらの画帖から今回の調査で扱うものは、『文部省発行錦繪』（〈 950,196）、『文部省発行錦繪』（〈 950,197）、『大日本物産圖繪』（〈 950,208）、『錦繪修身談 第一至六卷』（〈 950,242）、『錦繪修身談 第一至六卷』（〈 950,243）の五帖である。選定の基準は、これらの錦繪群が大判錦絵を冊子型に閉じた形でもとめられた、同様の装丁を持つことによるもので、作者や刊行年などに統一が見られるわけではない。

調査は、五つの班が統一の基準に基づきそれぞれ一帖ずつを担当して行った。他八帖については概要を本稿で述べるに留め、全図版を掲載して調査することは別の機会に譲りたい。

筑波大学宮本文庫は、現東京都北区滝野川にある寿徳寺住職であった宮木有式氏（みやき・ゆういつ、一八六七—一九五二）氏より昭和十三年七月、本学の前身、東京文理科大学に寄贈された。総点数五七二点から成る書籍群の内訳は『宮木有式氏寄贈 明治初年教育書分類別数量表 昭和一五年五月現在』に

—3—

よれば、一般書、哲学、宗教、教育、教科書、語学、文学、芸術、歴史、伝記、地理、法律、政治行政、経済財政、統計、数学、自然科学、医学、軍事、産業、家政、諸芸・遊戯、卒業証書等、錦絵、掛軸と多岐に渡っており、このうち本作は「錦絵十二帖」と分類されている。なお同著には「画帖十二帖」と記載されているが、今回の調査の結果、実際は十三帖であることがわかった。

宮木有式は明治元年（一八六七）千葉県東葛飾郡船橋市に生まれ、二五歳で旧東京府北豊島郡瀧野川町瀧野川にある寿徳寺の住職になった。明治時代の小学校教科書や江戸時代の往来物などを集めることに尽力し、その収集品目録は『明治時代小学教育書目録』<sup>三</sup>としてまとめられている。やがてこうした活動が新聞で報じられるや、記事を見た元東京文理科大学教授乙竹岩造（おとだけ・いわぞう、一八七五―一九五三）がこれらの書籍の大学への寄贈を申し入れ、昭和十一年、宮本文庫は本学に所蔵されることとなった<sup>四</sup>。宮木は教育への情熱から近隣の学校への二宮尊徳像寄附や学資援助などを行っており、本学への教育書寄贈もそうした情熱の一端であると言える。本作は少なくとも昭和十一年（一九三六）には宮木氏の手元に存在していたが、それ以前、即ち最も遡って明治六年（一八七三）からの六三年間、本作がどこに所蔵され、どのように使われていたかは不明である。宮木氏の追悼文集中には、宮木氏が教育関係の書籍を収集する方法を述べたものが乙竹の文中に採録されている。

「収集の方法としては、勿論東京や大阪の如き大都市の古本屋から買い取ったものも少なくないし、大阪商船会社に勤めていた知人篠田敏雄氏の手を経たものも相当にある。が併し又、田舎の木賃宿や百姓家に泊って集めたものも随分多い。中には大掃除の際に捨てられてある反古の中から広い集めて買い取ったものもある。こうした生き方で集めたものの避け難い難点は、端本多いということである。即ち三冊とか五冊とかの続き物だと、その中の一冊

とか二冊とかが抜けていて全部が揃わないことである。これを揃えるためには最も苦心したとのことであるが、いかにもと頷かれる。とにかくこうして五冊八冊と段々増えて行って遂に昭和の始頃既に無量五千七百冊という夥しい数に達したのであり、この外に尚悦ぶべきは、教育に関する錦絵・掛図・免状その他の文書類も相当に多くあつて、その中には稀覯の品も少なくないことである。」<sup>五</sup>

ここには宮木が一冊一冊を歩いてこれらの教育書を収集していった様子が記述されている。本作も凡そこのような次第で氏の手元に入手されたのであろう。資料中、一冊の画帖に複数のシリーズが集められていたり、本来揃物であるべきものが順不同であつたりするのは、宮木による編集が史的な精査の結果ではないことを窺わせる。

装丁については、簡略な綴じが行われているものと認められる。ただし『錦繪修身談第一至六巻』（へ 950 263）に限りアコーディオン型に綴じられている。表紙、並びに背、裏表紙について述べると、大判大に裁断したポール紙に無地あるいは横縞、唐草などの模様が施された布をくるみ、表紙、裏表紙とするが、背は糊付けが見られるだけで、恐らく当初から背表紙の体裁はとられなかったものである。表紙を捲ると、本によっては見返しが見られるがそれは肌裏紙を使ったものと窺われ、簡易な装丁である。見返し上隅に縦書きで枚数を示す墨書があるものもある。

錦絵はそれぞれの画帖に三二枚から六九枚を貼り込んである。各頁は薄い和紙に両側から大判錦絵を糊ばりし、これを集成して、表紙、見返しを付けて一冊としている。状態は、部分的に頁が本体から乖離するなどの損傷が見られるものの、錦絵自体の痛みは憂慮すべき程ではない。他機関で所蔵する同様のシ

リーズと比較しても鑑賞に堪えうる程度に留まっており、褪色も少ない。

錦絵の多くには、「文部省製本所発行記」、あるいは「宮木有式蔵書」の朱字方印が図版の添付後に捺されているものが多い。印章の種類は、次の八種がある。(一)内は、各調書における略称である。

- ・「文部省製本所発行記」朱字方印(「文部印」)
  - ・「東京文理科大学附属図書館図書之印」の朱字方印(「文理科大印」)
  - ・重圍黒字楕円印。三段に区切られ、上段から「宮木有式氏ヨリ寄贈」、「登録和 173781号」、「昭和12年7月8日」。(「黒字重圍印」)
  - ・「宮木蔵書」朱字楕円印(「宮木印A」)
  - ・「寄附宮木」朱字の縦書き印(「宮木印B」)
  - ・「宮木有式庫」紺字方印(「宮木印C」)
  - ・「宮木有式蔵書」朱字方印(「宮木印D」)
- 表紙のシール上に朱字方印があるが、各帖共に褪色して判読不能である。

### 【印章一覧】



各本における印章の有無や配置などは各調書で述べる。

次に、今回は詳細の報告を見送った七帖の宮木文庫画帖について、概要を述べておく。

《文部省発行錦絵(運動の図等)》(p.20,20a)は、大判錦絵一五枚を貼り込んだ綴じ本状の画帖である。内容はすべて文部省発行錦絵で、「器械体操組立図」三枚、「西洋人形着せ替図」八枚、「教訓道德図」一枚、「空気浮力図」二枚、「数理図」一枚、となっている。巻頭に「東京文理科大学附属図書館図書之印」の朱字方印、「宮木有式氏より寄贈」の黒字重圍印が捺され、続く頁に、「寄附宮木」の朱字の縦書き印、「文部省製本所発行記」の朱字方印、「宮木有式」の紺字方印が不規則に捺されている。

《東京小学校教授双六 広重筆》は双六絵で、題字に「生徒勉強 東京小学校教授双六」、左下端に「画工 安藤徳兵衛」とある双六である。全体が縦六段、横八段に分割され、東京都に在った学校の校名と所在地が一コマずつ描かれている。(図版は配置図)

《小学教育幻燈図》は、道徳的な内容の絵物語を冊子上に綴じた本である。上段に文字、下段に円形に描いた絵を配し、一頁につき二つの物語が語られている。

《小学急解つくりな》は、一ページを六コマに分割し、言葉の成立ちを説明した冊子である。其々の四角の中央に一図を描き、そこから放射状に単語を配している。例えば、中央にウサギを描き、それを挟むように「金持ちは」と「やましい」を配し、ウサギの「う」から「金持ちは羨ましい」という文を連想させるようになっている。

《幼稚園教手始》は、一ページに六図を配して単語を添えた冊子である。犬の図には「いぬ」という文字が添えられている。裏表紙には旧蔵者であろうか、

「鈴木幸助〇」などと墨書がある。

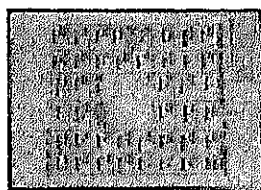
《小学入門幼稚園》は、五十音や数字、簡単なひらがな単語などを絵入りで紹介した小冊子である。この本の巻頭頁には他の本に見られない形の「宮木有式

【宮本文庫画帖 七帖】

《文部省発行錦絵（運動の図等）》

《東京小学校教授双六》

《小学教育幻燈図》

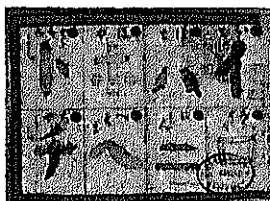
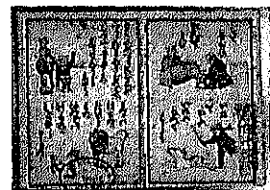
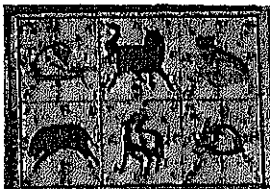
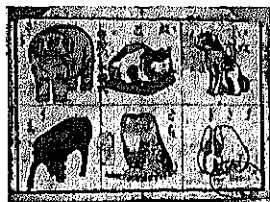


《小学え解つくりな》

《幼稚園教手始》

《小学入門幼稚園》

《教育画作字片仮名》



《大日本名將鑑》



図書」朱字方印、「寄贈 宮木有式」黒字方印が更に捺されている。

《教育画作字片仮名》は、松野米次郎発行の小冊子で、内容は、赤い枠の中に五十音の平仮名が絵文字でいろは順に描かれている。裏表紙には、旧蔵者であろうか、幼児の筆と思しき墨書で「オオタミチコ」「オオタハルコ」とある。

《大日本名將鑑》は、水野年方らの手になる錦絵の画帖である。

宮本文庫画帖は、一度部分的に展覧会<sup>6</sup>に出品されたことがあるのみで、美術資料として十分に活用されてきたとは言いがたい。画帖という形態が展示に向きであることもあるが、作品が未整理の状態であったことも、長い間作品が日の目を見ずにいた理由であると思われる。一方で、本作品群には幾つかの論点を提起する学術的に価値がある資料が含まれている。例えば、《文部省発行錦絵》は明治初期における文部省の教育施策に関する教育史資料としてだけでなく、錦絵終焉の時期の歌川派を知る資料として、美術史に照らして論じるに充分な価値を有するものであると思われる。これを一つの揃いものと考えれば、シリーズ中筑波大学は最大の種類を有する所蔵先であるし、本学は明治初期、教科書を製作する府として教育施策と深い関わりを持っていた。作品が分散していることや、教育資料として重視された余り、従来美術資料とみなされてこなかったが、本学における調査の必要性は明らかであろう。

このため、今回の調査では、「宮本文庫調査報告編」において資料活用に資するための調査として、画帖の概要、調書、及び図版を掲載した。別冊「論文編」では個人が宮本文庫画帖を手掛かりに考察した論考を掲載し、学術資料としての位置付けを行うことを目指した。（岡野素子）

〔書名、発行年、作者などの記載は東京文理科大学目録より引用し、末尾に図書館の分類

番号を示した。旧字体は原文による。

一 新井慧著『宮木宥式僧正文集』(寿徳寺文庫十一卷 寿徳寺発行 世界聖典刊行協会 一九八五) 所収一九二頁。

三 宮木宥式編『明治小学教育書目録』 出版社不明 一九三二再版

四 東京文理科大学に寄贈された書物は『明治初年教育書目録』と題する手書きの目録が作成され、現在、筑波大学中央図書館に保管されている。また、宮木は昭和十年に千葉県

立図書館にも一万七千冊の図書、漢籍、準漢籍を寄贈している。

五 新井慧著『宮木宥式僧正文集』(寿徳寺文庫十一卷 寿徳寺発行 世界聖典刊行協会 一九八五 二二八と二一九頁より抜粋)。

六 平成九年八月四日(八月九日、丸善・日本橋店四階ギャラリィ、主催、筑波大学、協力、丸善)筑波大学附属図書館特別展目録「明治のいぶき 黎明期の近代教育―幻灯・錦絵・教科書―」に、《文部省発行錦絵》が部分的に出品された。